

WAMは福祉と医療の民間活動を応援します

令和2年12月25日
独立行政法人福祉医療機構
経営サポートセンター長 佐藤 肇
経営サポートセンター
チーフリサーチアドバイザー 本地 央明
担当 内記・橘 (電話) 03-3438-9932
(FAX) 03-3438-0371

病院経営動向調査（2020年12月）の結果について

独立行政法人福祉医療機構では、今後の病院経営や医療政策の適切な運営に寄与するため、病院経営における現場の声・実感や定期的な経営動向の変化を調査する仕組みとして、2019年から病院経営動向調査を四半期毎（3月、6月、9月、12月）に実施しています。今回は2020年12月に実施した本調査の結果についてご報告します。詳細はホームページ(<https://www.wam.go.jp/hp/hp-survey/>)に掲載しております。

1. 調査の概要

- 対象：病院（375施設）を運営する法人277法人（うち、医療法人231法人）*法人調査対象は医療法人のみ
- 調査事項：病院および医療法人の収益・費用・利益、資金繰り、従事者数等に関する現在の状況と3ヶ月後の先行き予測、新型コロナウイルス感染症の影響
- 回答数：病院：275 医療法人：166 有効回答数：病院：275 医療法人：166
- 有効回答率：病院：73.3% 医療法人：71.9%
- 実施期間：2020年11月24日（火）～ 2020年12月14日（月）
- 実施方法：Web上で実施
- 集計方法：DI（景気変動を判断するための指標。各項目の第1選択肢の回答割合から第3選択肢の回答割合を差し引いて算出）に加工・集計して公表

2. 調査の結果

【病院の動向】

- 医業収益のDIは、一般病院が△14、療養型病院が△38、精神科病院は△6となった。
- 医業利益のDIは、一般病院が△35、療養型病院が△47、精神科病院は△23となった。
- 資金繰りのDIは、一般病院が△21、療養型病院が△2、精神科病院は△15となった。
- 従業員数のDIは、一般病院が△17、療養型病院が△20、精神科病院は△25となった。
- 病床利用率のDIは、一般病院が△27、療養型病院が△39、精神科病院は△17となった。

（補足）

- 医業収益DIおよび医業利益DIは前回調査と比較して、一般病院および精神科病院で上昇、療養型病院は低下していた。
- 従業員数DIは前回調査と比較して、一般病院および精神科病院で低下、療養型病院はほぼ横ばいとなっており、3ヶ月後の先行き予測でも全ての病院類型で低下している。
- 経営上の課題について、人件費の増加と職員確保難を挙げる声が多かった。

【医療法人の動向】

- 事業収益のDIは前回調査より19%ポイント上昇の△20、事業費用のDIは前回調査より8%ポイント上昇の34、事業利益のDIは前回調査より19%ポイント上昇の△39となった。資金繰りDIは△9、従業員数のDIは△27となった。

【新型コロナウイルス感染症の影響】

- 医業収益の直近10月実績について、前年同月比で減収（1割以上減）となった病院の割合は、一般病院で29.8%、療養型病院で34.8%、精神科病院で27.1%となり、いずれも4・5月と比較すると回復傾向がみられた。
- 上半期（4～9月）の医業収益について、前年同期比で減収（1割以上減）となった病院の割合は、一般病院で59.6%、療養型病院で51.5%、精神科病院で39.6%となった。
- 上半期（4～9月）の一病院当たりの病床利用率は、一般病院で76.2%（前年同期比△5.5Pt）、療養型病院で86.4%（同△3.5Pt）、精神科病院で86.9%（同△1.2Pt）となった。
- 上半期（4～9月）の一病院当たりの外来患者延数は、前年度同期と比較して減少しており、一般病院で△11.1%、療養型病院で△8.9%、精神科病院で△9.6%であった。

以上